

道徳のかけ橋

平成26年11月27日発行
第 3 号
福 島 県 教 育 庁 課
義 務 教 育

福島ならではの道徳教育を

「ふくしま道徳教育資料集」を活用した授業が各学校で行なわれています。資料集には、震災を経験した福島の子どもたちに、今後の生き方について考えさせたい読み物が多く掲載されています。ぜひ、授業や読み聞かせ等で活用してみてください。今回は、「ふくしま道徳教育資料集」を活用した授業を紹介します。

中教研いわき大会 いわき市立江名中学校 2年 1組 阿部孝平先生の授業

- ◆ 主題名 やり抜く強い意志 1-(2) 希望、勇氣、強い意志
- ◆ 資料名 「三十年後の桜」 『敬愛・つながる思い(ふくしま道徳教育資料集第Ⅱ集)』

「三十年後の桜」は、ボランティア団体代表の西本由美子さんが、子どもたちが喜ぶ「世界一美しい浜街道」をつくるため国道6号沿いに桜を植林している活動を資料にしたものです。阿部先生は、この資料を使って希望をもって生きていくことの大切さについて生徒と一緒に語り合う授業をしたいと考えたそうです。

生徒は、西本さんが、様々な困難を乗り越えて活動を進めていく姿に自分の生き方を重ねて考えていきました。中心発問は「西本さんがあきらめずに活動を続けることができたのはなぜだろう」。阿部先生は「先生だったらあきらめちゃうなあ」と生徒に語りかけ、西本さんが「強い意志」を持ち続けられた理由について生徒と一緒に話し合っていました。

その後、「私たちの道徳」に載っている「宇宙兄弟」の主人公の台詞「俺の敵は、だいたい俺です」を提示し、生徒に、今の自分の敵は何なのかを考えさせました。この展開の流れが絶妙でした。「自分の弱さ」を敵と考えた生徒、「夢や希望」を味方と考えた生徒、それぞれが自分の生き方を深く見つめて考えていきました。1時間の授業で、生徒たちは、強い意志をもって生きていくことのすばらしさ、そして、その難しさを考えることができました。

終末で、西本さんを紹介するテレビ番組「ふくしまのハンサムウーマン」の映像を視聴し余韻をもたせて授業は終了しました。

福島の道徳資料と「私たちの道徳」を上手に関連させた展開構想で、生徒たちにとって忘れられない道徳の授業となったと思います。



道徳教育推進校 福島市立瀬上小学校 4年 1組 津田智子先生の授業

- ◆ 主題名 思いやりの心 2-(2) 思いやり、親切
- ◆ 資料名 クリスマスのおくりもの 『生きぬく・いのち(ふくしま道徳教育資料集第Ⅰ集)』

「クリスマスのおくりもの」は心温まる話です。震災後、京都の小学生の女の子から福島県庁に「自分へのクリスマスのプレゼントは福島の子どもたちへ届けてほしい」という手紙が届きます。心を打たれた県の職員が、その願いを叶えたいと考え、避難していた子どもたちに絵本のプレゼントを贈ったという内容です。

津田先生は、京都の女の子の思いや絵本をもらった福島の子どもたちの気持ちを考えていくことで、相手の気持ちを考え、思いやりをもって行動することの大切さに気付かせたいと考えたとのことでした。

授業では、子どもたちに、女の子が手紙を書いた時の気持ちを考えさせました。「わたしは今年は、プレゼントはいりません」という女の子の言葉に対して、「自分の分はいらないなんて、本当に優しい女の子だと思います」「自分は、同じようにできないかもしれない」など、様々な意見が出ました。クリスマスプレゼントは、だれもが楽しみにしています。それを我慢しようとする女の子の優しさを、震災を経験した子どもたちだからこそ、感謝と感動をもって感じ取ることができたのだと思います。

自分の生活を振り返る場面では、書く活動を設定していました。継続して授業の中に書く活動を位置付けてきているとのことで、子どもたちは素直に自分の考えを書き綴り、真剣に自分自身を見つめ直していました。「避難所にいた時に、近くのおばさんが大丈夫と励ましてくれて、うれしかった」「お年寄りの荷物が



重そうだと思ったので、持ってあげた。自分が人の役に立ててうれしかった」「今までなかなか親切にできなかったけれど、これからは少しでもいいから、困った人に親切にしてあげたい」などの記述があり、自分が思いやりをもって行動したことを振り返ったり、親切にすることの大切さに気付き、実行しようとする気持ちを高めたりしている子どもたちの姿を見ることができました。

道徳教育推進校として学校全体で進めてきた研究をベースに、確かな資料分析を行い、本時のねらいを明確に設定し、目の前の子どもの思いを大切にしてい

て展開していたすばらしい授業でした。県内では7校の推進校が各地区の道徳教育のモデル校として研究を進めています。「ふくしま道徳教育資料集」を活用した授業も積極的に行っています。その成果は、年度末に「推進校報告書」としてまとめ、各学校に配布する予定です。ぜひ、ご活用ください。

平成26年度 道徳教育推進校

〈県北〉福島市立瀬上小学校 〈県中〉玉川村立須釜中学校 〈県南〉白河市立五箇中学校 〈会津〉猪苗代町立猪苗代小学校
〈南会津〉南会津町立南会津中学校 〈相双〉南相馬市立原町第二小学校 〈いわき〉県立遠野高等学校

人権教育推進地域「おおたま学園」大玉村教育委員会

大玉村は、村内の幼・小・中を一貫校構想「おおたま学園」として人権教育の研究を進めています。大玉村はもともと全国でも先進的な「コミュニティ・スクール」の研究を続けてきました。その研究を土台に「共によりよく生きる子どもの育成」というテーマを設定し、地域ぐるみの人権教育が行われています。12月2日（火）には、「おおたま学園公開授業研究会」が開催されます。震災及び原発事故後、改めて人権教育の必要性が高まっています。県全体で人権教育を充実させていきたいと考えています。



大玉村キャラクター たまちゃん

道徳の時間の教科化に向けた答申がでました

平成26年10月21日に中央教育審議会「道徳に係る教育課程の改善等について」の答申がでました。答申には、①「特別の教科 道徳」（仮称）を位置づける。②目標を分かりやすいものに改善する。③授業を多様な指導方法に改善する。④検定教科書を導入する。⑤よさを伸ばすための評価を充実するなど、今後の道徳教育に関する内容がまとめられます。今後、学習指導要領の改訂、教科書検定基準の作成等の整備が進められ2018年度から本格実施の見通しです。

文部科学省のホームページには、答申や部会での議事録も掲載してありますので、ぜひ、ご覧ください。